

## 「神様に喜ばれる子」 ～うそと狡さに注意～

詩篇 119：66～67

私たちは素直でしょうか。素直に生きていますと賢くなると言われています。また聡いという言葉がありますが、これは賢いという意味があります。この聡いという言葉のつくりは「耳」「公」「心」という部位で成り立っています。この「公」というのは私という意味があります。それは自分自身を正しく、欠けることなく分別を持って見ると「公」な姿となるからです。人は自分自身を見る時に良い部分しかみない傾向があります。そして周りには良い部分よりも悪い部分を見るようになっていきます。それは私たち自身を「公」で見えていくことができないようなことです。自分が良く見えていると自分がこの地上にあって、何をしていくのか、何のために生まれてきたのかが分かってくるのです。私たちは神に出会うために生きていたとした場合、神様に会って何をしていくのでしょうか。それを知らなければ会う必要を十分に満たすことができないものです。神様に会えることは自分自身について考え、また自分が生まれた意味を知り、それをどのように果たしていくのか考えて実践していくことです。では反対に「狡（ずるい）」について考えていきたいと思えます。この字の“けものへん”は“いぬ”と読みます。ですから狡猾という漢字は犬に交わると、犬に骨にされるとい意味があります。犬とはチワワのような人に害を与えないような優しい犬ではありません。野犬のように獰猛で自分勝手な振る舞いをする犬を意味しているのです。ハイエナの姿を思い浮かべてください。奪い合って食べている姿をみても狡さを感じることができると思えます。反対に賢いこと例える時にフクロウが出てくることがあります。フクロウはなぜそんなに賢く見られるのでしょうか。鳥は夜、目が見えないのですがフクロウは目に見える情報だけで動くことをせず、いつも耳をそばだてて相手の気配を察知して生きています。最初の人アダムとエバは創られた当初はとても良かったのです。そして神様の約束を守りながら生活していました。しかし悪魔の誘惑にあいいます。そして悪魔はうそをついて人を騙して約束を破らせることに成功しました。その時、アダムとエバは神様に悔い改めることができませんでした。きっかけは狡さによって罪を免れようとしたからでした。人を騙したり、狡をする人は最初は得をします。しかしばれた時は酷いこととなります。それは分かっています。しかし私たちは嘘をついたり狡をして自分に得するようにしてしまうのです。ダビデ王は詩篇の中で「(119:66～67) よい分別と知識を私に教えてください。私はあなたの仰せを信じていますから。苦しみに会う前には、私はあやまちを犯しました。しかし今は、あなたのことばを守ります。」と詩を綴っているようにいつも分別を求めて祈っていた人でした。そして自分に分別があるのか神様に聞き、自分を見つめる人でした。私たちは自分の見つめる時にはこのようなものに注意しなければいけません。「うそ、だます、わな、馬鹿にする、見下す、陰口、悪口、自分勝手、二心、表裏、仕返し、比較、巻き込む、人を笑う」というものがあります。このようなことをしてしまうのはすべて自分のためにしているからです。隣人のためにすることではありません。私たちがしてしまう罪のためにイエスキリストは十字架にかかられたのです。私たちの贖いをしてくださいました。ですから私たちは「**イエス様ごめんなさい。私に教えてください**」と祈っていく必要があります。ダビデが分別することができるようにいつも祈り教えてもらっていたように、私たちも神様の声に耳をかたむけていくことです。思慮深さ、聡さ、賢さとは神に聞いて歩む人生において成就します。聞かなければ良いものを得ることはできません。私たちは正しいことが分かっているても自分の感情や経験や考え方にしがたって間違っただけを行ってしまうのです。そして後悔しているのです。ですから私たちがその間違っただけをしないためにも神に聞き、そして従うことを選ばなければなりません。このようなことを繰り返していることを愚かというのです。私たちはこの愚かな人生を繰り返すのは止めにしないとはいけません。そして狡い生活をしていくと愚かになっていってしまうのです。私たちの心からそのようなものがなくなるようにお祈りしていきましょう。(要約者：平澤 一浩)